

## 足立区都市交通マスタープラン検討委員会会議録

会 議 名	第三回足立区都市交通マスタープラン検討委員会		
開催年月日	平成22年5月18日		
開催場所	足立区役所 南館8階 特別会議室		
開催時間	午前10時00分開会～午後11時50分開会		
出欠状況	委員現在数 30名 出席委員数 24名（うち、代理出席3名） 欠席委員数 6名		
出席者	内山 久雄	吉田 樹	武石 哲夫
※括弧内は代理出席者	板谷 和也	鈴木 そのみ	松原 秀壽
	峯岸 絢子	宮脇 睦	結城 健
	五十嵐 康夫	小野 恭一	戸上 学
	熊川 浩美	名倉 豊	椎名 康雄
	上床 和年	森 大治郎（荒井 昭男）	佐々木 健二（池田 正人）
	大橋 達男	加藤 直宣	青木 光夫（稲本 望）
	有賀 純三	大高 秀明	岡野 賢二
事務局	都市建設部交通対策課交通計画係 出席職員 都市建設部副参事（交通計画） 市川 二三夫 都市建設部交通対策課交通計画係長 高浦 隆嗣 都市建設部交通対策課交通計画係 菅原 和幸 都市建設部交通対策課交通計画係 南海 千津子 都市建設部交通対策課交通計画係 山本 隆史		
会議次第	別紙のとおり		
会議に付した議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 足立区都市交通マスタープラン策定の目的と平成21年度の検討状況</li> <li>・ 討議資料の説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 第二回委員会での議事と本委員会の論点</li> <li>② 実態調査からみた足立区の交通実態について</li> <li>③ 足立区の交通に係わる課題</li> <li>④ 交通施策の方向性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通手段等に求められる役割</li> <li>・ 配慮すべき制約条件</li> <li>・ 今後の取り組みイメージ（案）</li> </ul> </li> <li>⑤ 足立区都市交通マスタープラン検討の枠組み</li> </ul> </li> <li>・ 質疑及び討議</li> <li>・ その他</li> </ul>		

## 第3回足立区都市交通マスタープラン検討委員会

### 議 事 要 旨

#### 1. 開催概要

〈日時〉 平成22年5月18日(火) 10:00～

〈場所〉 足立区特別会議室

#### 2. 出席者

別紙参照

#### 3. 議事次第

- 0 第二回委員会での議事と本委員会の論点
- 1 実態調査からみた足立区の交通実態について
- 2 足立区の交通に係る課題
- 3 交通施策の方向性
  - (1) 交通手段等に求められる役割
  - (2) 配慮すべき制約条件
  - (3) 今後の取り組みイメージ(案)
- 4 足立区都市交通マスタープラン検討の枠組み

#### 4. 資料

- 討議資料
- 参考資料

## 5. 議事要旨

### (1) はじめに

事務局の開会の辞ののち、検討委員会委員長より本委員会での主な議題を中心に挨拶をいただいた。

### (2) 第二回委員会での議事と本委員会の論点

事務局より討議資料を基に第二回委員会における主な議論の紹介と、本委員会で主に議論いただきたい点について説明した。

### (3) 討議資料の説明

事務局より平成 21 年度に実施した実態調査からみた足立区の交通実態、足立区の交通に係る課題、交通施策の方向性、足立区都市交通マスタープラン検討の枠組みについて説明した。

### (4) 質疑及び討議

以上の説明ののち、検討委員会委員長の進行により以下のような、質疑が行われた。

#### <副委員長>

- バスの乗車率が高くない中で利用者には本数増加のニーズがある。現在の容量と需要量を把握したほうが良いのではないか。

#### <委員長>

- 乗車率に関しては、バス事業者が把握していると思う。データを事務局に提供して頂ければと思う。

#### <委員>

- 調査結果でも示されていたが、お客様の数は減少している。運賃は、平成 9 年に 210 円を設定しそれ以降据え置いており、現行運賃では新たな設備投資も難しい。乗車密度としては 14～15 人／台程度は確保したい。
- 参考資料 9 ページに、「バスの車内の状態」についての調査結果があるが、ここでいう「体や肩が触れ合う状態」であれば収支的に問題ない。

#### <委員>

- 資料 7 ページの足立区の地区割りだが、西新井近辺では環七が通過し、環七の南側に複合施設が出来ている。地区割りとして如何なものか。
- 資料 9 ページの「公共交通不便地域と主要施設図」の主要施設の位置がずれていると思う。データ元をご教授頂きたい。

#### <事務局>

- 7 ページの地区割りは、パーソントリップ調査の地区割りとして最小の単位となっており、環七を南北に分けることは難しい。
- 主要施設の位置は、住所から座標を計算し 100m メッシュに対応させている。そのため、位置がずれているように見えるが、100m メッシュの中に施設があると考えて頂ければと思う。

<事務局>

→ 地区割りのご指摘は、そのように感じている。今回、足立区が独自にパーソントリップ調査を実施しサンプルを積み増したことで、16ゾーンでの分析が出来るのだが、精度面からはこれより細かいものは難しい。

<委員>

○ 環七以北には公団住宅が立て替えを実施している。新田地域も大規模開発により小中一貫校が出来た。将来の都市交通を考える上で、地区割りを再検討頂けたらと思う。

<委員長>

○ 「現状が明らかになっていない状態では今後の検討が出来ないのではないか」というご指摘であり、もつともだと思う。100mグリッドが必ずしも細かいとは言わないが、100mグリッドで区切られたエリアは1ヘクタールであり、都市計画の検討上、もつとも参考になる広さである。

○ 現状は平均値の議論をしており、平均的なことは分かるけれども、今後は細かいところを踏まえたくて検討頂きたい。

<副委員長>

○ バス交通政策に関する弱さを感じる。「はるかぜ」は12弾まで運行を行い、採算が取れているという評価がある一方、「本数が少ない」、「運賃が高い」という区民の声もある。公共政策として、黒字であれば成功なのかという点については議論しておく必要がある。マスタープラン策定以降、個別の事業計画になった際に、空白地域に対して1日2~3本の路線を埋めればいいのかという話になると思う。そのため、公共交通政策に対してどのようなスタンスで臨むかについて議論をしなければ、結局のところ何も変わらない。

○ 「交通施策の方向性」に「求められる役割」が書かれているが、現状のサービスを前提に書いていると思う。書き方についても議論を重ねる必要がある。

○ 「今後の取組のイメージ案」に記載されているデマンド型運行などは、「求められる役割」と比較すると、途中が飛んでいる感がある。データから見えない政策論について、議論をしなければいけない。

<事務局>

→ 公共交通のカバー圏域は人口で93%となっており、今までの政策は方向として間違いはなかったと思っている。ご指摘は「本数は少ないがカバーしている」、「行きたい方向に行けないがカバーしている」ということと感じている。今後は、16ゾーンの中でどのような要望があり、どのような課題があるかについて分析していきたい。

<委員>

○ 千住の河原町だが、最近バスが朝夕しか停まらない。本数が変わった経緯やバス会社に対する補助金はどうなっているのか。武蔵野、杉並では100円で乗車出来るため、そのようにすると乗客がもっと増えると思う。

<事務局>

→ 「はるかぜ」の千住循環だと思うが、大型マンション等がある地域にルート変更を何年か前にさせて頂いた。朝は駅までの時間を早め、昼は多くの地域の皆様に乗車頂けるようルート変更した経緯がある。

→ 他区市のコミュニティバスは100円で乗車出来るが、シルバーパスが使えないところも

ある。また、目的地まで40分以上かかり、1時間に1本しか本数がないコミュニティバスもある。そのような視点からすると足立区はシルバーパスも全て使え、系統や運行本数も他区市と比べ、相当密度が高いと思っている。

<委員長>

- シルバーパスが使えるということは、補助があることになる。武蔵野市の話が出たが、武蔵野市・三鷹市は吉祥寺と三鷹駅を抱えており、コミュニティバス運行以前は、ひどい違法駐輪の状態であった。そこで、駅までの自転車利用を抑制し、代替交通手段としてコミュニティバスを用意した経緯がある。

<委員>

- 補助については、東京都から1回の乗車につきいくらかという形で頂戴している。足立区からは特に補助は頂いていないが、施設整備や道路改良などで御協力を頂いている。

<委員>

- 将来政策を決めてから、現状に落とし込んでいくという検討方法もあると思うが、今後どのように進めていくのか。

<事務局>

- 今後の進め方だが、これまで第1回、第2回と委員会の中でご意見を頂戴し、本日の議論をさせて頂いている。議論を踏まえ、ブロック毎に方向性を出したいと考えている。それを踏まえ、バス事業者や幹事会・作業部会で検討していきたい。
- また、個別の施策については事務局で勉強させて頂き、次回の委員会で提案させて頂きたい。

<委員>

- 足立区が交通マスタープランを策定するという取組は大変評価すべきもので、ぜひ素晴らしいものを作って頂きたい。
- パーソントリップ調査を用いて、区内の主なゾーン間移動のトリップ量を交通手段毎に見せて頂くなど、軸、ベクトル、動線が見えると分かりやすい。
- 拠点駅というのが幾つか位置づけられているが、拠点駅の考えをもう一度ご説明して頂きたい。
- 検討の進め方で、今回の都市交通マスタープランは需要追随型のプランを作るわけではないということか。課題確認を行い、先を見据えた計画を作ろうとされているが、「まちづくり」、「エリア毎の考え方、それに必要な交通」の姿がないと今後の取組イメージが出ない。将来展望をしっかりと議論し、それを克服するための交通マスタープランを作らなければいけないため、次回以降は将来展望を提示していくことが必要と思っている。

<事務局>

- 区内を16ブロックに分け、ブロック別に利用駅、私事目的のOD（起終点）等の分析を今後行っていく。委員のご指摘を重点的に実施し、現状を明らかにしていきたい。
- 拠点駅の考え方は、足立区の都市計画マスタープランで位置づけられており、都市計画マスタープランでは拠点駅のまちづくりのあるべき姿が記載されている。
- 将来の取組イメージは、第4回委員会の検討になるが、その中で「フォアキャスト」、「バックキャスト」の考え方として、現状分析から将来のあるべき姿を定める方法と将来の目標像を先に決め、それから肉付けする方法の2つの視点で課題解決に向けて考え

ていきたい。

<委員長>

- 足立区がパーソントリップ調査の補完調査を実施したため、それを中心に分析する流れになっているが、足立区が就業地で足立区を訪問している方もいるはずであり、その方達がどのように足立区内の拠点駅に来ているか等も分析する必要がある。

<副委員長>

- 取組イメージはメニューが羅列され、重点が分からなくなる。財源も限られるため、例えば足立区は、バスと自転車を徹底的にやるなどメリハリをつけたほうが良いと思う。EV(電気自動車)やカーシェアリングが記載されているが、将来あるべき姿を見据え、焦点を絞ってやったほうが良いと思う。

<委員>

- 現状把握におけるパーソントリップの分析結果は、実際に顕在化している交通の状況と理解している。しかし、動くことが出来ず、交通行動が出来ない方が実際には困っており、そのような方のニーズもあると思う。

<委員長>

- パースントリップ調査でモビリティバリアの有無、なかった場合の行先希望などについて調査はしていないか。

<事務局>

- 福祉施策との連携もあると思うが、「全く動けない」、「歩行困難」の方々を視野に入れてマスタープランを策定するかは大きな議論点だと思っている。16ブロックに居住している方のご意見を分析し、次回委員会で委員の方に見て頂けるようにしたい。

<委員長>

- バスについては満足度調査を実施しているので、不満と回答した人についての分析は引き続きやって頂きたい。

<委員>

- 障害者の方にアンケートを実施することは現実的に不可能だと思う。ケアマネージャーから事情を聞くことは可能か。可能ならば区の税金も使わずに効率の良い調査が出来ると思う。

<事務局>

- 福祉担当も交え、情報交換しながら福祉の視点を集約していきたい。

<副委員長>

- 16地区の分析において、「行き先ニーズの把握」とあったが、それらを把握した後の取り組みの線引きが非常に難しくなる可能性がある。健常者をターゲットにした交通政策からどこまで裾野を広げるのか。政策として、「福祉タクシー券の配布」等で終わっている。これらにプラスアルファの新しい政策が出てくるか疑問である。政策の方向性については議論が必要と思う。
- 「今まで外出出来ていなかった」人達は、「自分は何処に出かけたいのか」、「何処に出かけられるのか」に気づいてないケースが多い。その方たちにアンケートを行ってもニーズは拾えない。委員が提案した手段等で把握したほうが良い。

<委員長>

- 資料3ページにおける「高齢者の自転車利用の傾向」に着目したい。高齢者の自転車利用が増加し、徒歩が減少している。考え方として、「高齢者の自転車利用を促進するために「自転車走行環境」を作るべきである」、「高齢者の自転車事故件数が多いため、高齢者の自転車利用を抑制する」という2つがあり、そのような選択肢が出てくると思う。説明では、「自転車に優しい将来像」があるが、私としては、「高齢者の自転車」についてはもう一度考えるべきだと思う。
- 今日、委員から頂いたご指摘の箇所について作業して頂き、深く分かりやすいものにしていただきたい。

<事務局>

- 今回のパーソントリップ調査の結果から、足立区の特徴は自転車利用が多いことだと思っている。意識調査で「自転車をもっと利用するための条件」を聞くと「自動車と分離された自転車のための道を作る」や「歩行者と分離された自転車のための道を作る」が多い。また、「快適に歩くための条件」を聞くと、「自転車と分離された歩道を作る」が多くなっており、こちらからも自転車の量が多いという実態が出ている。
- また、区営駐輪場における定期利用者の推定利用道路では1,000台以上という路線・区間も多く「自転車の走行空間」についても今後、個別に各関係機関とご相談していきたい。
- 歩行者では、高齢者の「駅周辺の段差解消」に対する要望が一番多くなっている。ここも非常に重要と思う。
- 副委員長から施策の絞り込みについてご指摘があったが、「自転車の走行空間」、「バリアフリー」に主眼におくことを事務局でも検討している。

<委員長>

- 自転車については今後、関係機関と協議し検討していくことで宜しくお願ひしたい。他に質問がある場合は事務局に後日言って頂きたい。

(5) その他

以上で質疑を終えた後、検討委員会委員長より進行が事務局に戻され、事務局より次回開催時期など、その他の連絡を行った。

<事務局>

- 次回の委員会の開催は、別途連絡する。
- 今回のパーソントリップ補完調査結果について後日「あだち広報」で公表する予定である。
- 今回の会議録については、後日区のホームページ等に公表していきたい。
- 本検討委員会への意見等がある場合は、事務局へご連絡いただきたい。

以上